

インドネシア人帰還移民の再統合における労働経験の意味 －移住先での労働者層別分析

The Meaning of Work Experience in the Reintegration of Indonesian Returned Migrants: An Analysis by Worker Stratification in the Destination of Migration

中谷 潤子 (Nakatani Junko)

本研究は、インドネシア人移住労働者のなかでも非熟練労働者、技能実習生、看護師・介護士を含むケア労働者という異なる労働層の人々を比較考察することで、移動の実相と帰還後の再統合の在り方を明らかにすることを目的として始まった。しかしながら2020年度よりコロナ禍で海外現地調査がかなわなかった。そのような中研究の継続のために、科研メンバーで読書会をすることにした。時間をかけて英語文献を輪読することで、移住労働についての海外の様々な研究を知るとともに、それをインドネシア移住労働者の状況と比較し、討論を重ねてきた。2022年度は、2021年度に始まった”Departing from Java – Javanese Labour, Migration and Diaspora”の講読を進め、インドネシアからの移住労働者のマジョリティであるジャワ人のインドネシア内外の様々な地域への多様な移住について知った。さらに”Reintegration Strategies”では、エチオピアからの移民の帰還後の再統合について、高度人材、留学生、非生産労働者の階層別に再統合について分析されていた。この文献は、研究テーマである「再統合」にフォーカスをあてており、これまでの自身の再統合のとらえ方について、再考する機会となった。

そして年度末である3月に3年ぶりに海外現地調査を行うことができた。インドネシア人移住労働者の調査のために、これまでも訪れていた台湾を訪れた。まず政府機関で台湾における移民支援についてインタビューをすることができた。さらに移住労働者の帰還後を視野に入れたスキルアップのための支援を行うNPOを訪問し、活動を見学するとともに設立者に話を聞くこともできた。その他、移住労働者の受け入れ及び派遣機関への継続調査訪問のほか、主に結婚移民を支援している協会や小学校にある夜間学級での台湾籍取得のための言語クラスを見学し、担当教員に話を聞くこともできた。この調査で、台湾の移民支援のなかの結婚移民（新住民と呼ぶ）への支援と移住労働者への支援の違いを感じるとともに、台湾のみならず各国での移住労働者の立場の周辺性を改めて感じるようになった。

成果としては、10年にわたって継続インタビューをしているインドネシア人看護師について2022年7月にインタビューし、その結果を2023年3月刊行の『大阪産業大学論集人文・社会科学編47』に発表した。さらに上述の台湾調査の内容を中心に、現在論文を共同執筆中であり、さらにこれまでの研究について2024年度の国際学会で発表しようとして申請中である。